

久 総 第 2490 号  
令和7年 10 月 31 日

久米島町議会  
議長 玉城 安雄 様

久米島町長 桃原 秀雄

令和7年度久米島町議会報告会における町民からのご意見・要望について(回答)

令和7年 10 月3日付依頼のありました標題の件について、下記のとおり取り組み状況を報告します。

#### 記

##### 1. 奥武島の港について(建設課)

奥武島の船溜まりが砂で塞がっており、その砂が泊港まで流れてきている。現状を視察し、県の事業で抜本的に対策すること。

回答: 県に確認したところ、仲里漁港泊地区の現況調査を行い、砂の移動により漁港施設に支障があれば航路浚渫等の対策を行うとのことです。

奥武島の船溜りについては、漁港施設ではない旧船溜りが県営海岸事業で支障をきたしたため、代替施設(補償)として整備しております。県の漁港施設ではないことから奥武島船溜り浚渫は厳しいとのことです。

町としても対応が厳しいことから、久米島漁協や利用者に対しては、仲里漁港(真泊・泊・銭田地区)の利用をお願いしております。

なお、船溜りが県の漁港施設へ編入できれば整備の可能性があるため、編入について県と協議しております。

##### 2. ごみの分別について(環境保全課)

ペットボトル等のゴミの分別が十分出来ていない状況がある。町民に対してごみの分別方法を周知徹底すること。

回答: ごみの分別については、令和4年度に家庭ごみの分別及び収集等を一覧表にした「**家庭ごみの正しい分け方・出し方**」を配布しており、それを参考

に家庭ごみを出していただいております。今後もホームページへの掲載、公式LINE、町広報誌、FM久米島で引き続き周知を行っていきます。

また、次年度に向けて「家庭ごみ分別辞典」の作製を予定しています。「家庭ごみ分別辞典」とは、ごみの品名別に分別区分を細分化し、現在の家庭ごみ分別一覧表で確認するだけでは判断が難しいものについて、まとめた冊子となっており、ごみの分別がより簡単で容易にできるように各世帯へ配布する予定です。

### 3. 人口減と観光入域客の減少について(企画財政課・商工観光課)

久米島高校への入学者が減ってきている。久米島町の存続にも関わってくると思うので出来るだけ早く久米島高校への受け入れ体制の拡充を強力に進めていただきたい。また、観光入域客数の減について、関係部局と議会、関係する団体とで話し合いを持って進めること。

回答:人口減少対策につきましては、「第2次久米島町総合計画」の各施策において、ライフステージに沿った施策を実施し、定住・移住に取り組んでいるところですが、減少に歯止めがかからない状況です。

住む人がより幸せを感じるまちづくり、住みたいと思っただけのまちづくりに引き続き取り組んでまいります。

高校魅力化の拡充については、ハード面を含め受け入れ環境の整備も必要となりますので、今後の魅力化推進とあわせ検討してまいります。

#### ○観光入域客の現状

・令和6年度から第3次久米島町観光振興基本計画が策定され、令和6年度からの5年間で観光入域客15万人を達成すべく様々な施策を展開している。

令和5年度 90,982人(44,964人 9月末現在)

令和6年度 88,527人(43,488人 9月末現在)対前年度1,476人減

令和7年度 45,460人(9月末現在)対前年度1,972人増

#### ○各種受入強化

・現在の集客の施策としては、祭り、マラソン大会などの各種イベントや修学旅行受け入れと誘致活動、プロ野球春季キャンプや社会人、大学野球キャンプ等のスポーツコンベンション事業を展開している。

特に今年度は、①二次交通の整備 ②ご当地グルメの開発(久米島ぐるっと島ぐるめ) ③インバウンドの受入体制の整備(国際交流員を採用)など取り組んでいる。

○PR戦略の強化

- ・観光協会のウェブサイトをポータルサイトとして機能強化する。利用者の利便性を高め、観光スポット、飲食、体験、アクティビティ、歴史文化資源など分かりやすく見やすいように情報発信ツールの充実を図ります。
- ・沖縄の人気ユーチューバーや芸人のユーチューブで久米島の情報が発信され多くの人が見ている状況がありますので、その辺も積極的に受け入れながら多様な情報発信に努めます。

○魅力ある景観まちづくりの推進、美化活動、イーブ地区の充実

- ・観光協会では、「島の学校」体験プログラムがありますが、観光庁の補助金を活用して行っております。また、くめじまDMOでも食に関するテーマでご当地グルメの開発を行っており、今後とも連携していきたい。
- ・イーブビーチ地区は、久米島の中でも宿泊施設や飲食店が集積し、昼夜を問わず島民も観光客も集まるエリアであります。今後も関係課と連携して、景観形成に努めます。
- ・毎月第 2.4 月曜日 16:00 からビーチ等の清掃活動を行っております。10 名前後。観光協会、JTA、役場、各ホテルなど。

○インバウンド受け入れ体制の充実について

- ・久米島においては、年間約 2,500 人の外国人が来島している。
- ・R7 年 7 月 30 日から商工観光課にて国際交流員(CIR)を採用して業務を行っている。

○今後について

- ・2024-2028 第3次久米島町観光振興基本計画に基づいて、観光協会やDMO等と企画し、多くの旅行者を呼び込みたいと考えております。

4.介護人材不足について(企画財政課・福祉課)

ここ4～5年、特に看護師、介護士の人手不足で非常に深刻な事態となっている。このままだと、福祉事業所の事業継続が出来なくなるのではないかと危惧している。県へ要請するなど対策を講じること。

回答：近年の介護人材不足は一段と深刻化しており、町民の皆様が安心して暮らせる医療・介護体制を維持していく上で、喫緊の課題であると認識しています。介護人材確保及び就業への取り組みとしましては、沖縄県が実施する「島しょ地域介護人材確保対策事業」を活用し、初任者研修・実務者研修を実施して人材育成に努めており、県外で開催される移

住フェアへの参加の際に町内事業へも案内し、これまで医療や介護事業所の採用に繋がっている事例があります。しかしながら、介護現場は依然として厳しい状況です。現行の支援策を基盤としつつ、更なる支援策の強化と拡充の要望を検討いたします。介護人材確保においては今後においても外国人材を含め町の施策として取り組んでまいりたいと考えております。

#### 5. 国指定五枝の松の松くい虫対策について(博物館)

一人の樹木医だけでなく、複数の樹木医にも確認していただく等あらゆる手立てを尽くすこと。

回答:久米島町では、樹木医一人と契約して、島内の天然記念物や巨木、名木を診断していました。平成3年度に松くい虫が島内で確認された頃から、担当樹木医とは別に、もう一人樹木医と一緒に来島し二人体制で診断していました。今年度は、個人ではなく、沖縄樹木医会が、組織で五枝のマツを診断しています。

松くい虫発生当初より、県と町では、松くい虫対策会議を立ち上げ、樹木医の他に、各分野の有識者が、対策について協議し、いただいた助言、提案のもと、一番有効的な樹幹注入と薬剤散布を真っ先に行い4年間継続してきました。対策会議では、ダムや河川への環境的な影響、住宅地への影響、五枝のマツ本体への負担などが議論され、劇薬のため使用など実施困難な対策もありました。また、薬剤メーカーも何度も来島し、松専門の技術者が薬剤の注入を実施し、薬の効果の検証もしていただきました。

このように国、県、町、関係機関、樹木医と連携し可能な限りできる対策は行ってきましたが、残念ながら8月26日の樹木医の診断により枯死と診断されました。久米島島内においては、松くい虫の密度の高さ、枯死木の多さに加え、地形的に原野、山中での伐倒処理および伐倒後の枯死木の運搬、焼却、薬剤燻蒸処理が困難な場所が多いのが現状です。枯死木が多く、松くい虫が蔓延している環境下では、健全な松でも対策が困難であり、老木で樹形が複雑な五枝のマツを守るのは、とても厳しい状況であったと考えています。

#### 6. 久米島まつりについて(商工観光課)

今年から民間委託することになっているが、予算面を考慮してもっと良い案は、なかったのか内容を含めて具体的な説明をすること。

回答:令和7年度 久米島まつりにおける沖縄振興特別推進市町村交付金の活用について

1. ソフト交付金活用に至った経緯(背景)

- ・物価高騰に伴い前年ベースの予算では不足が生じ、同規模の開催継続が困難だった。(町負担コロナ前600万以内、コロナ後800万以上)
- ・町民交流に加え観光振興の要素を強める方針へ転換。
- ・「来島者の増加」「観光地としての魅力発信」「広域的な効果」を掲げた事業目的により、沖縄振興特別推進市町村ソフト交付金の対象事業として採択された。

2. 活用の最大のメリット

- ・町予算の圧迫を回避しつつ、地域経済への波及効果を高める設計ができた(交付金活用により町負担を380万円内に抑えることが可能になった)
- ・町単独では実現困難だったスケール・広報・演出面の強化が可能に  
例:ラジオ、テレビ出演、SNS 発信/県外へのPR/コンテンツ充実
- ・地元事業者と連携した「地域総力戦のまつり」としての進化、ボランティアで担っていた会場整備役員を予算化し地元事業者にお願いができた。
- ・久米島の認知向上と地域活性化の起爆剤として役割を担う。
- ・専門家と協力することでより効果的で魅力的なまつり企画運営が実現している。

3. 委託業者の選定について

- ・事前に公募型プロポーザルを実施(エントリー4社)
- ・外部有識者を含む公平な審査を経て、もっとも町の実情や目的に即した提案を行った1社を選定

4. 予算規模の妥当性

- ・委託費・出演料・広報費・設備費などを適正に積算したうえでの構成(仕様書を作成し4社に見積りを依頼)

5. 久米島認知、経済効果

- ・9/20(土)飛行機全便およびフェリー満席 来場客数の増加
- ・各民宿ホテル稼働率8割
- ・久米島まつりと奥武島キャンプ場でのキャンプをコラボした企画

・島内の事業所と人材を優先とし可能な限り島内経済に還元している。島内で対応が難しい内容については(花火、音響、照明)例年と同様、島外専門業者に依頼。

・スタッフ30名分の宿泊費、昼夜弁当代、レンタカー代

・今年初の事業所活用

➡バス事業者・・まつり時刻にあわせた無料シャトルバス運行

➡建設業者・・足場設営、会場テント設営等

・テレビ放送の活用ができ、先週 9/3HY4名が久米島取材来島。インスタに久米島情報が発信された(フォロワー数20万人)。テレビ放映は 10/13 ゴーゴーゴージャ。

・ほか出演者の久米島についてインスタ発信(玉城千春、TOOKAMI、魅川憲一郎、山川まゆみ)

・9/11 はお昼ラジオ放送あり(ハッピーアイランド)。まつりだけに留まらず久米島の魅力発信する機会が増え、年間通しての観光客入客数増加を目指し実施している。

本事業は、町民交流と観光振興の両立を図る新たなまつりの形として、ソフト交付金の活用効果を最大限に引き出すものである。今後も「地域資源を活かした持続可能な観光・地域づくり」を目指して取り組んでいく

## 7. 買い物困難者について(プロジェクト推進課)

ご高齢の方の買い物が不便だと感じている。移動販売車の滞在時間が短く、重い荷物を持つことも大変である。移動販売車を1台増やすなどの対応をすること。

回答:町では、地域商店の減少などにより、買い物に不便を感じる住民が増加していることから、町で整備した車両を A コープへ貸し出し、町の指定する地区にて移動販売を実施しております。現在は週3日の巡回体制で対応しています。

一方で、要望地域の拡大や販売時間の延長を求める声が増えておりますが、運転手の確保が難しく、対応に限界がある状況です。A コープでも求人を継続しておりますが、応募がなく、体制強化が課題となっております。

現在、設立予定のシルバー人材センターなどの活用も視野に入れ運転手の確保に努めております。見通しが立ち次第、巡回日数や販売時間の延長など、段階的な改善を検討してまいります。

また、移動販売車の増台については、今後の需要の推移や運営体制の整備状況を踏まえて検討を進めてまいります。